

同窓会だより

発行
千葉県立船橋高等学校同窓会
 千葉県船橋市東船橋6-1-1
 〒273-0002 TEL 047-422-2188
 ホームページ <http://funaobog.hp.infoseek.co.jp>
 印刷 (株)サラト
 姫路市北条宮の町172番地
 TEL 0792-84-1380

題字/小原天篤先生



平成17年度合唱祭 船橋市民文化ホール 1年生音楽選択者とオーケストラ部によるハレルヤ

【母校はいま】

第四領域の可能性

学校改革が叫ばれて久しく、あらゆる学校が今、新しい教育を模索しています。わが船橋高校として例外ではありません。私自身、昨年春に赴任しましたが、同窓生として懐かしさに浸るのも束の間、早速新しい船高づくりに駆り出される毎日です。さて、それでは船高は今後どのような方向に向かうのか。進学指導重点校として指定をうけ、校内プロジェクトも立ち上がり、具体的な取組みも始まっていますが、ここでは船高の可能性に関して、私なりに若干の考察を試みます。なお、これはあくまで私見、試論です。

従来、生徒の学校生活と言えば、まず授業であり、文化祭や修学旅行といった学校行事であり、部活動でした。そこで、それらを図のように整理してみました。すると、右下の領域、すなわち課外で学問を扱う活動領域だけが空白となることに気づきます。仮にこれを第四領域と名



これを第四領域と名付けることにしましょう。実は今船高が取り組んでいることは、ちょうどこの第四領域に当たります。

現在始まっている例をいくつか紹介します。まずは土曜日、長期休業を利用した補習です。場所、時間、担当講師の確保、内容設定など、まだまだ課題も多く、試行錯誤が続いています。

次に大学出前授業についてです。これは大学の教員や研究者を講師に招き、土曜の午後に二時間程度、希望生徒や保護者に向けて授業を行って頂くという企画

です。昨年度五回、今年度六回が実施され、好評を得ています。特に今年度第三回は、同窓生の大久保忠恭氏（大阪大学薬学部助教授）におこし頂きました。同窓生の中には大学教員となっておられる方も多数いらっしゃると思っていますので、是非よろしく願います。また高校大学連携事業として、文科省理科大好きプランの一環であるサイエンスパートナーシッププログラム(SPP)にも、生物科、物理科を中心に積極的に取り組んでいます。

今船高に求められている使命は、単なる受験指導に傾くことなく、学問への動機付け（誘惑・誘導）を行う中で生徒の学力知力を豊かに伸ばすという、まさに本来の公教育そのものであると思います。学校五日制をはじめ、さまざまな現実的制約の中でこの課題に弾力的に取り組むためには、この第四領域の果たす役割がとて大きいように思えます。実際、進学校・伝統校と言われる高校の多くは、この領域に何らかのアクションを起こし始めています。

もちろん問題も山積しています。例えば、他の活動領域、特に船高で盛んな第三領域（部活動）とぶつかり、人と時間の取り合いのような事態となってしまう可能性があります。その結果、生徒や教員への過重負担が共倒れを招いたり、正課を損なうようでは元も子もありません。このように不安要素も大ですが、何とか生徒にとって有意義な活動領域に育てていきたいものです。そのためにも、同窓生のお力添えを是非お願いいたします。

寄稿 吉田 昭彦

（県立船橋高校教諭・平成十六年着任・昭和五十三年卒）

同窓会に思う



同窓会長
小石 税

(昭和三十年卒)

本年夏の県立船橋高等学校同窓会総会において承認いただき、気持ちも新たに、引き続き、会長の大役を仰せつかりました。

平成十四年に会長のご指名を受け、爾来三年、諸先輩方の策かれました同窓会の更なる発展を念頭に精一杯努めて参りました。この三年間、何より理事の方々や会員の皆さんからご支援を頂いたからこそ、この大役を務めてこられたものと改めまして感謝申し上げますとともに、これからの三年間も今までと変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げて、お願い申し上げます。

三年前の会長就任時、二十一世紀の同窓会を思い、若い世代の母校を思う気持ちに込めて、新たな同窓会へと飛躍したいとの決意を申しあげましたが、会長再任にあたって、この思いを改めてかみ締めております。

さて、現在、母校は千葉県の進学指導重点校の指定を受けるなど文武両道にわたり全国に名前を轟かせておりますが、反面、少子化の影響で新入生から一クラス減と、生徒数が減っています。

このようなことから、母校県立船橋高校の更なる躍進には、在校生の奮起、奮闘に加えて、我々同窓生の支援が不可欠なものとして改めて意を強くするも

のであります。具体的なお願いは、別頁にて、掲出させていただきましたが、より親しみのある、よりアクティブな同窓会活動を通して母校にエールを送っていきたくと考えておりますので、ご理解のうえ、ご協力を賜ればと思っております。

また、これからの同窓会活動を進めるにあたって、定時制で学ばれた方々にも、今まで以上に参加いただきたいと考えております。そこで、今回、新役員として田辺副会長（昭和四十一年卒）を迎え、定時制の同窓生のための組織作りをお願いしました。今後、定時制の皆さんのネットワークを構築するなどの活動を進めて参りますので、よろしくご協力ください。

末筆となりましたが、会員諸兄の筆ますますのご健勝と更なるご活躍をご祈念申し上げます。

教育公務員



校長
川名博志

今年の九月、衆議院議員総選挙があり自由民主党が大きく議席を伸ばした。小泉首相が郵政民営化を唯一の争点として掲げ「なぜ二十六万人の郵政職員が公務員である必要があるのか。これすらできないければ改革は進まない。」と訴えたことへの有権者の判断と言われている。これを見て、「教育職員が公務員である必要があるのか、と声が出ないとは限らない。そ

の時教育公務員としての我々の対応は・・・と自問自答してしまつた。

現に私立学校が公教育において大きな役割を果たしていることを考えた時、公立学校の在り方、教育公務員の在り方がまさに問われているのではないかと。

また最近大きく取り上げられた大阪府職員の厚遇問題や連日のようにマスコミをにぎわす公務員の不祥事等から、公務員一般に対する国民の批判、不信感も増しているように思われる。国レベルでも公務員制度改革が大きな課題となつている現実もさちんと受け止めなければならぬ。

郵政と教育を同一視点で論ずるつもりはないが、私たち教育公務員は、公立学校における教育の意義、必要性を日々の教育活動を通して国民に（県立高校ではまず県民に、地域に、保護者等に）理解してもらおう努力をしなければならぬ。

公務員は不要だ、と言うことではないはずだ。識者は「政治家がこぞって公務員を非難し、国民が日頃の不満の口を公務員批判に求めるというのは健全ではない。改革にあたって、目的と手段を逆転させず、公務員と有権者の双方に傷を残すことなく、むしろ新たな信頼関係を築くことが求められる。（飯尾潤 十七・九・二十 千葉日報）」と述べている。

今年から本校でも、学校の教育活動を保護者や地域の方々に評価していただきそれらを参考に学校運営の改善を図る学校評価や、一人一人の学校職員が自らその年度の目標を設定し努力することによって資質・能力の向上を

図る目標申告制度を取り入れ、まさに保護者や地域の方々等との新たな信頼関係の中で教育活動の充実を目指す取り組みを始めたところだ。

うらやましくもはかなかりけり



教頭
池田哲雄

人生の中でいつが一番よかったか、と問われた時、今が一番いいと答えることにしている。ただ、振り返ると高校時代は一種独特なものがある。

「現国に早弁一号見つかりしうらやましくもはかなかりけり」一年生の最初の日直の日、学級日誌に書いておいた。次の日担任であり国語の担当である先生からそれは本歌取りという手法だということを教えてもらった。三分間スピーチということと自分の意見を話した数日後、級友から「先生が池田は弁証法を心得ていると言っていた」と言われ、意味は分からなかったがとて嬉しい気持ちになった。

考えなしに行動して先生にたしなめられた苦い経験もある。クラス対抗の球技大会の練習のため、隣接しての自衛隊のグラウンドを借りようとしていた時であった。実はその前に自衛隊から学校に銃剣術の訓練のためグラウンドを借りたいとの申し出があり、生徒会として反対していた事情があった。三年になつて急に化学と世界

史が好きになり、化学は受験科目ではなかったが学年一番を目ざして必死に勉強した。世界史でパンケ（革命宴会）という言葉を知ると、仲間と「パンケだ、パンケだ」と言いながら牛肉をたくさん持ち込んで焼き焼屋でさわいだりした。卒業式は前年の討論会形式だったので自分は卒業記念パーティーでいうところの勝手なことを言い出した時も先生方は会議を何回も開いて実現させてくれた。

先生との関わりも含めていい時代を過ごせたとと思う。高校生の中には何も決まっていないうちから漂うような、それでいてとても新鮮な目で世界を見始めた、他のどの時代とも似ていない自分である。うらやましくもはかなき貴重な時の中にある船橋生達と出会えて幸せを感じています。

陸上競技大会 (平成17年10月)



アコースティックギター部 (同好会から昇格しました)



かるた大会 (平成17年10月)

平成十八年

『春の同窓会』

ご案内

実行委員長 齋藤 衛
(昭和三十九年卒)

創立七十周年をきっかけに始まった「還暦を迎えた同窓生が幹事学年となり実行する春の同窓会」は、毎年二月十一日開催の同窓会として定着してまいりました。同窓会が新しく取り組んで育ててきたこの事業、今回が十二回目の開催となり、毎回三〇〇人以上の同窓生が集い、また「春の同窓会」は、船橋八十年の歴史の中で、新たな「伝統行事」の一つに数えられる同窓会最大の行事です。

さて、平成十八年二月十一日の「春の同窓会」で実行委員の大役を務めますのは、我々第十六回、昭和三十九年卒業生です。何事にも一丸となって取り組んできた第十六回生、今回の同窓会にも力を併せて開催に向け、アトラクション等の趣向も計画し、一人でも多くの同窓生にお集まり願ひ、早春の一日を楽しんで過ごしていただけるよう準備にとりかかっております。

回を重ねることに参加者が増えてきた春の同窓会では、毎年、三年間机を並べて学んだ友や忘れられない恩師との再会、各界で活躍されている先輩や後輩との思わぬ出合いが演出されています。また、最近では、卒業十、二十、三十周年といった記念の

年に改めて同期生が集まり、ここから同期会が始められたということもあるそうです。

第十六回卒業生が力を併せて実行委員を務めてまいりますので、是非、皆さんお誘い合わせでご参加いただき、懐かしき母校への思いを語り合ひましょう。ご参加をお待ち申し上げます。

船橋高校の

歴史(十二)

— 定時制課程日毛分教室 —

前県立千葉高校教諭 小川 信雄
(二九六三年卒)



オーケストラ部と合唱部によるクリスマスコンサート (東船橋駅コンコース) 平成16年12月

市川市鬼高にあるニツケコルトンプラザは、日本毛織物(株)が経営する映画・飲食・アクセサリー・男女衣服などの総合テナントで一九八八(昭和六三)年十一月に開業している。総武線下総中山駅と本八幡駅間の南側に見えるこの場所とは日本毛織物中山工場であった。日本毛織物は一八九六(明治二九)年十二月に設立され、九

九(同三三)年五月に兵庫県加古川工場で操業を開始した。中山工場は一九二〇(大正九)年に上毛モスリン中山工場として出発(モスリンとは薄く柔らかい平織りの梳毛織物のこと)し、一九二七(昭和二)年に同社は日本毛織物(昭和共立)となり、四一(昭和十六)年七月に日本毛織物山工場となった。同工場の製品

は手編毛糸、織糸、各種制服・学生服生地などであったが、経営方針の転換によって一九八二(昭和五七)年五月に工場の操業は休止され、現在のニツケコルトンプラザとなった。

この工場の従業員に対して工場内にも施設をおき、県立船橋高校定時制課程教員の出張授業と(従業員・生徒の通学を併用した定時制教育がおこなわれたことがあった。これが「日毛分教室」である。平井孝一教諭の記録によれば、発足は一九五三(昭和二八)年三月に日本毛織物から従業員の勉学意欲に対応したいとの協力要請があり、それに応じて船橋高校側では、中学校卒業後一年をへた従業員から志望者を入学試験によって七八名を合格させて同年四月に入学許

可した。この試みに対して日本毛織物中山工場は教員の出張授業の手当として年間経費二四万円をPTA会費として負担し、県教育委員会も実験学級として一・五名の教員定数増をおこなったという(平井孝一「日毛分教室について」、『千葉県立船橋高等学校 創立五十周年記念誌』所収、一九七一年七月号)。定時制課程で作成した「昭和二八年七月 本校定時制に於ける「二交替制勤労青年」に対する試み」では「日毛の従業員は、二交替制で甲乙二班(甲班は午前四時から午後一時四十分まで(早番)、乙班は午後一時四十分から午後一〇時まで(後番)と編成)あり、之が一週間毎に交替する故、夜間部にも、昼間部にも通学出来ないで、これら従業員に高等教育を行い、広く青年に教育の機会を与えるのが目的である」と述べている。

措置などをとった。しかし、この日毛分教室は順調にはいかなかった。会社は分教室を経営に利益あるものとは考えなかったのか、その縮小・停止をかけた。一九五三(昭和二八)年四月入学生は前述したシステムによって五七(昭和三三)年三月に卒業できたが、翌五四年四月になると会社は女子のみ短期二年の教育を依頼してきた。このため分教室生徒の高校教育を保障するため、女子の残り二年間と男子に対しては県立千葉三高(現千葉東高校)通信課程を併用せざるを得なくなった。

一九五五年四月入学生も同じ措置となったが、翌五六年四月に会社は一カ年の募集停止とした。しかし未就学で入学を希望する従業員がいるために、定時制課程で入学の募集をしたところ希望者があり、一学級の入学を得たという。このように会社の労務管理の変更によって工場内の施設の使用が不可能になったために、学校側では五七(昭和三二)年四月から五九(同三四)年三月まで、船橋市の小栗原公民館の施設を分教室として借用して授業をおこなうまで条件が悪化した。五六年四月の入学生は四年生の一年間を通信制課程の生徒としてすごした。こうして、一九六〇(昭和三五)年三月に「日毛分教室」の実験は終了した(分教室の二期生が五七年十二月三二日から正月四日まで実施した京都・奈良修学旅行記念文集『旅草』なども残されているが、今回、分教室生徒たちの学校生活やその意識については紹介ができなかった)。

当時、同工場従業員は約二、四〇〇名で、若い女子従業員が約二、四〇〇名を占め、このすべてが新制中学校卒業であり、ほとんどが会社の寄宿舎にいた。また彼女らの出身地は関東甲信越地方や福島・山形県であり、応募者十倍にもなる希望者から採用された人々であった。しかし、結婚による退職者も多く、毎年四〇〇名近くの従業員が交替していたという。教室は工場試験部施設二階に二教室が仮設され、早番の場合は船橋高校へ通学して午後五時三〇分から九時まで授業をうけ、後番は午前九時から十二時まで工場の分教室で授業をうけるものであった。通学の場合、翌朝勤務は午前四時から、睡眠時間が不足する。このため、学校側では健康管理上、毎月体重測定をおこない、クラブ活動も夏休みに振り替える



福本 高一郎

(昭和40年卒)

株式会社東陽テクニカ社長

船高を卒業したのは四十年前になる。船高時代の思い出といえば体育祭。騎馬戦、棒倒し、わが軍の勝利のためにと高揚して参加していた。先生方が竹刀を持って反則の監視をしていたのが思い出される。試験はもっぱら一夜漬けて済ましていた。英語は不勉強がたたって、高一の時に落第寸前になってしまった。英語担当は越川先生。授業になると真っ先に私を指名、答えを間違えると立たされる。正解が出るまで立たされる。これが毎授業続く。さすがに参って、知り合いに勉強方法を教わり、予習を毎日続けた。一ヶ月程経った頃から立たされなくなり、何とか進級できた。「越川先生、感謝しております！この時は、まさか英語を使う職業に就くとは、思っていませんでした。」

上智大学理工学部に進学し、生涯付き合う友にも出会え、自由で気軽な学生生活をエンジョイしていたが、何か物足りなさを感じていた。大学では、次第に学生運動が激しくなり、過激派学生による校舎竈城と警官隊突入による排除事件が起き、授業どころではなくなり卒業研究は中止になってしまった。東大紛争・安田講堂事件の前年であった。友人の紹介で、株式会社東陽テクニカに就職が決まったのは、卒業間近になってからだだったが、入社式には同期と一緒に参列できた。その年一九六九年にアポロ11号が人類初の月面着陸に成功。翌一九七〇年には、大阪万国博覧会開催。町中に沸き立つような活気があり、日本はGNP世界第二位になった。

輸入電子計測器部門に配属され、米国製放射線計測器の担当になった。毎日、大学や研究所、病院を廻り、商品を紹介した。お客様からの質問や要求は、その日の内に米国のメーカーにテレックスで問い合わせ、翌日、その回答を翻訳して説

明のためにお客様を訪問した。米国のメーカーとのやり取りは当然英語（社内に英語専門家がいて助けてくれましたが）。技術資料、取扱説明書なども全て英語。再び英語のホームワークの日が多くなった。試験も無いのに学生時代よりも勉強をした感じだった。

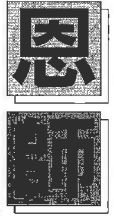
沢山のお客様に面談する内に、購入しやすくするための工夫をいろいろ始めた。日本語カタログ・資料の作成、大幅な納期短縮、修理体制の確立など。お客様の反応を見て、また新しい工夫をした。お客様訪問を繰り返している内に、学生時代との違いに気づいた。自分の行動が評価となつて、直接に自分に跳ね返ってくるのだ。厳しいこともあったが、学生時代よりも充実感を得ることができた。

私は、一貫して営業・企画部門を担当したが、幸せなことに、信頼する上司の後押しのおかげで、いろいろな分野に挑戦させてもらえ、その都度、新しい仲間たちとさまざまな貴重な経験をすることができた。海洋調査機器、携帯電話・放送機試験装置、SPM（走査型プローブ顕微鏡）、インターネット通信試験機器など。これらの内、思い出に残る商品を三つ挙げて、プレイトテクノクス理論が有名になった映画「日本沈没」の監修を行った東京大学海洋研究所「白鳳丸」に納入した深海用地層探査測深器。小型・簡単な装置で原子像を観察できるノーベル賞受賞原理を実用化したSTM（トンネル顕微鏡）とAFM（原子間力顕微鏡）。プローブバンド通信を実現するためのTCP/IPネットワークの構築を黎明期から支えたOSI7層翻訳LANプロトコルアナライザー。それぞれの分野で、科学技術の進歩のために、多くの科学者やエンジニアに支持された画期的な新技術だった。

何よりも技術的なことが好きで、正直でまじめで熱心な仲間恵まれ、昼夜分かたず仕事に集中し、順調に業績を伸ばした。一九八六年十二月に取締役に、一九九五年十二月に代表取締役専務に就くことになった。今日までもに苦勞して、私を支えてくれた仲間、また、指導してくれた上司に大いに感謝している。この頃に、日本は急激な変化を迎えることになった。

一九九〇年バブル崩壊とその後の長期デフレで、ほとんどの企業が痛手を受けた。名立たる大手企業もリストラを断行し、終身雇用制が崩壊した。株式市場の国際化ということで、会計規則が大幅に変更された。企業不祥事の横行、地球環境問題の高まりにより、コーポレート・ガバナンスや企業の社会的責任（CSR）などの企業の倫理行動がますます重要視されるようになった。他方、インターネットがほとんどの家庭に普及して、誰でも世界中の情報を瞬時に入手できるようになり、その結果、インターネットの情報が社会を動かすようになった。世界市場においては、中国、韓国などアジア諸国の急激な追い上げで、日本企業を取り巻く競争環境はより厳しいものになった。この様な状況の中、日本企業がグローバル競争を勝ち抜くには、一層の技術革新が要求されている。企業経営の舵取りは、一段と難しさを増してきた。

二〇〇二年十二月、私は東陽テクニカの社長に就任した。この東陽テクニカは、欧米の電子計測機器の輸入販売およびオリジナルシステムの製造販売を主な業務としている。私は東陽テクニカの伝統「お客様を志向する自由闊達な会社」を継承し、「はかる技術」を一層強化して、日本企業の技術革新を支援するために最新計測技術を提供し続けていきたいと思う。



探訪

坂田武総 先生

県立船橋高校出身者 による「美術作家展」 によせて

昭和三十七年から三十九年頃の夏休み、当時一番新しい木造二階建ての離れの校舎。一階が美術教室。そこではカーテンを閉めきって美術部の生徒たちと先生方、用務員のおじさんが熱心にスケッチブックに鉛筆をすべらせていた。根岸先生が行った夏のヌードクローキ講習会である。外からは見えないようにしていたカーテンの間からガラス越しに顔を押しつけて、中を覗こうとする運動部の生徒たちがいたと聞いたのは、随分後のことである。

当時私は美大の学生で、その頃の美術部の人たちも多くが美術作家となり、様々な活動を行っている。

昭和四十七年四月、私は県立船橋高校に美術教師として赴任して来ました。当時、芝草一先生が工芸を担当しており、美術の専任が不在で、小山松隆君(三十九年度卒)、金井守君(四十年年度卒)、その他数名が毎年入れ替わり、非常勤講師として美術の授業をしておりました。昔の木造校舎の面影はなく、校庭の片隅にある藤棚だけが残っており、藤棚を目安に昔の校舎の位置を確かめることができました。その藤棚も現在は二つの校舎の中庭に移されています。

転任してから間もなく、芝先生が陶芸窯を造ろうと言い出し、二人で校長に頼みに

行きました。露崎校長は快く承諾し、校長の運転する車で市原高校の陶芸窯を見学に行ったり、市川の陶芸家など数軒の窯を見せてもらったりして、学校で使用するには電気窯が一番安全で使い易いということになり、二十キロ窯を入れてもらうことになったのです。ここに、浅見錦龍先生命名による橋楽窯が誕生しました。工芸の授業だけでなく、美術部や興味のある生徒、そして他教科の先生たちが作陶にのめり込んでいきました。

芸術科三人(浅見、芝、坂田)で始めた橋楽窯に音楽の野尻先生が加わり、次の年は他教科の先生が加わって、陶芸は益々盛んになっていきました。橋楽窯は、浅見先生・芝先生が転出された後根岸先生・小原先生が引き継ぎました。

昭和五十年を過ぎて美術部の活動も活発になり、自分たちで日程を分けて活動することもありました。美術室が狭くて全員で制作することが窮屈だったからです。県展に多数入選したのもこの時期であったと思います。県展に出品して自分の力を試してみたいとの思いからでしたが、その後県展が高校生を閉め出して出品できなくなったことは、残念なことでした。

総合選抜の行われた昭和五十年から五十二年の頃、生徒は個性豊かで、美術大学を希望する生徒も多かったのですが、総合選抜が終わり、生徒の学力が更に高くなると、工業意匠・建築への進学を希望する者が多くなってきたように思います。

当時、美術教室の南側にある広々とした雑草園には、コジケイ親子が一行になつて道を横切ることもありました。また、雑草の生い茂る荒地を耕して、四季折々の作物を作る先生がおりました。その見事な鋤の扱いに感心して、校舎の二階三階から声援をおくる生徒たちに振り向きもせず、一心に汗を流す姿は微笑ましいものでした。

昭和六十年の秋、この牧歌的な風景が消えるときがきました。生徒の増加が始まり、美術室・工芸室を普通教室にすることが決まりました。美術室・工芸室・家庭科室・コンピューター室等の特別棟の建設が始ま

つたのです。工芸室の図面を根岸先生が、美術室の図面を私が作りました。出来上がった教室はこちらの要望が随分抜けたものではありましたが、明るく使い易い教室でした。船橋高校在職の最後の四年間、気持ちよく授業を行うことができました。

さて、今回同窓会の支援をいただいて、「県立船橋高校出身美術作家展」を開催することとなりました。同窓会がかかわったこのような展覧会は、県立千葉高校など歴史ある学校で見せていただいたことがありません。同窓会の皆様の御理解と御協力があって開催させていただけることに大変感謝しております。第一回のときは、平成三年二月に県立船橋高校創立七十周年記念行事の一つとして、同窓会主催・県立船橋高校後援・東武デパート共催でかなり力の入った展覧会でした。絵画・彫刻・陶芸・ガラスと幅広く全国で活躍している作家たちが積極的に参加しました。同窓生・船橋高校の生徒たちもたくさん見に来ていただき、我々の活動を理解していただくことができました。

今回第二回展は、西武デパートの好意により平成十八年一月十一日から十七日の一週間、七階イベント会場で開催させていただきます。出品者の充実した作品が展示されます。同窓生の方々、在校生の皆さん、そして地域の多くの皆様に御覧いただければと思います。



坂田武総

昭和47年4月～平成2年3月在職
元美術教諭

県立船橋高校出身者による

「美術作家展」

会期 2006年1月11日(水)～17日(火)
AM10:00～PM8:30 (最終日PM4:00終了)
会場 西武百貨店船橋店7階多目的ホール
◇後援 県立船橋高校同窓会 ◇協賛 西武百貨店船橋店

出品作家

S30年卒	林 忠正	S39年卒	小山松 隆	S40年卒	金井 守	S47年卒	荻原 正人
S35年卒	坂田 武総	S39年卒	小林 洋子	S40年卒	酒本 雅行	S53年卒	尾上 由香
S36年卒	岩切登志子	S39年卒	高須 不二	S41年卒	石井 芳之	S58年卒	森 哲郎
S36年卒	中谷 時男	S39年卒	時田 豊	S44年卒	今野 恵一	H4年卒	三木サチコ
S38年卒	小林 正誠	S39年卒	渡辺 桂	S44年卒	田口 有		

事業協力金増額のお願い

会長 小石 税

母校、千葉県立船橋高等学校在校生の活躍は、多方面に及び同窓生の皆さんにも届いていることと思います。今回の同窓会だよりでもその一端を紹介しましたが、同窓生としては非常に誇らしく思い、また、在校生に一層の精進・努力を願うものであります。

このような同窓生の思いに添えてくれるかのように、昨年来、母校は千葉県への進学指導重点校の指定を受け、第一志望校への現役合格者五十五%以上、難関校への現役合格者二〇人以上を目標に掲げ、土曜日や長期休業中の補習授業に積極的に取り組んでいます。また、部活動も非常に盛んで、県大会、関東大会、全国大会はもちろんです、欧州大会や世界大会に出場した選手もいます。既に七回を数えるオーストラリア短期留学にも希望者が殺到しているとのことですが、しかし、一方では、少子化の影響もあり、昨年度まで一学年九クラス構成が、今年度の新入生から八クラスと一クラス減となり、生徒数も減ってしまいました。

このような現状を踏まえ、在校生の活動を支援するべく、在校生への支援を拡充し、より充実した学園生活を支援するためにいろいろな事業を展開してきましたが、これらの事業を行う同窓会の資金には限界のあることも事実でございます。このため、同窓会の資金的な充実を図るため、規則を改正し、入会時に負担していただいていた会費二千円を三千円に引き上げましたが、これだけでは不十分です。このため、今回は、同窓会だよりの紙面を通じて、皆さんに事業協力金の更なるご支援をお願いする次第です。この事業協力金は、同窓会だより発行原資と考え、一口千円のご負担を皆さんにお願いしたものです。この協力を同窓会事業、特に、在校生の活動を後援する事業への原資に活用するため、可能ならば、二、三口と増額していただきたいと思います。

まだまだ、社会情勢が厳しいことは十分に承知しておりますが、後輩に生き活きたした高校生活を送ってもらい、自己実現に向けた確たる礎を築く一助になればと、会員諸兄に、枉げてお願い申し上げます。

同窓会事業報告 平成16年度事業報告

十六年度決算につきご認識頂きたい事は、まず在校生の活躍とこれに伴う援助金の増加です。これに、応じ在校生の入学時の同窓会費の三千円の値上げです。決算上は総会の承認事項ですので、預かり金処理しております。これにともなう事業協力金のお願いは既に述べてあるとおりです。又、役員任期満了により改選が行われ、総会で承認されましたのでお知らせいたします。

新役員のお知らせ

- 名誉会長 三代川 幹雄 (元会長)
顧問 齋藤 和夫 (元副会長)
顧問 林 昇志 (前副会長)
会長 小石 税 (再任・昭和30年卒)
副会長 金子 安雄 (再任・昭和34年卒)
副会長 天羽生 豊 (再任・昭和35年卒)
専務理事 芹川 兵衛 (前実行委員長・昭和37年卒)
副会長 田辺 幸一 (定時制昭和41年卒)
監事 中村 嘉秀 (再任・昭和32年卒)
監事 松永 修巳 (前理事・昭和33年卒)

平成16年度特別会計収支決算報告書

Table with 5 columns: 摘要, 15年度決算, 16年度予算, 16年度決算, 備考. Rows include 前期繰越金, 会費等収入, 利息, 合計.

Table with 5 columns: 摘要, 15年度決算, 16年度予算, 16年度決算, 備考. Rows include 宴会費, 同アトランション代, 通信費, 幹事学年打合せ費, 運営費, 事務局実行委員打合, 特別会計2への繰出, 次期繰越金, 合計.

特別会計2 事業関係

Table with 5 columns: 摘要, 15年度決算, 16年度予算, 16年度決算, 備考. Rows include 前期繰越金, 事業協力金, 会員名簿販売代金, 寄付金, 特別会計1よりの繰入, 利息, 合計.

Table with 5 columns: 摘要, 15年度決算, 16年度予算, 16年度決算, 備考. Rows include 同窓会だより発行, 振込み手数料, 通信費, 名簿管理費, 打合せ会議費, 学校寄付金, ホームページ関連, 特別奨励金・報奨金, 寄付者の礼状他, 雑費, 立備費, 立替金, 次期繰越金, 合計.

同窓会事業報告 16年度の事業に伴う決算は次表の通りです。

平成16年度一般会計収支決算報告書

Table with 5 columns: 科目, 15年度決算, 16年度予算, 16年度決算, 備考. Rows include 繰越金, 会費収入, 雑収入, 合計.

Table with 5 columns: 科目, 15年度決算, 16年度予算, 16年度決算, 備考. Rows include 会議費, 通信費, 印刷費, 消耗品費, 人件費, 団体支出金, 卒業記念費, 育英金, 組織企画費, 会費, 雑費, 事務局費, 予備費, 合計.

Table with 2 columns: 科目, 金額. Rows include 一般会計積立金, 積立金利息, 合計, 自動車1台, 同窓会書庫1基.

●学校の現況

●定時制の部活動

千葉県高等学校定通体育大会

- 陸上競技
女子500m 優勝 中島 恵
男子500m 優勝 築山 孝司
バスケットボール 優勝 築山 孝司

- 剣道
女子個人 優勝 井出 信彦
男子個人 2位 一戸 裕奈
卓球
男子シングルス 優勝 岡田 敏行
ソフトテニス 2位 上野 恵美
女子ダブルス 山口恵理子

●全国大会の記録

- 陸上競技
女子 100m 出場
男子 800m 出場
男子5000m 入賞 築山 孝司
男子15000m 入賞 築山 孝司
バスケットボール
男子 2位 ベスト16
女子個人 一回戦敗退
女子団体 一回戦敗退
卓球
男子シングルス 一回戦敗退

●全日制の部活動

運動系部活動の番号の区分

- ①16年度新人大会
②17年度関東大会予選
③17年度全国高校総体予選
④その他

●運動系部活動

- 野球
①ブロック大会 一回戦
②ブロック大会 二回戦
③県大会 二回戦
陸上競技
男子800m 3位 櫻井 一輝
男子1000m 1位 本間 泰斗
男子1500m 3位 本間 泰斗
男子5000m 3位 本間 泰斗
男子10000m 2位 本間 泰斗
男子20000m 6位 小畑 大樹
男子マラソン 8位 本間 泰斗
(以上関東大会出場)

- ④17年度新人大会
女子400mリレー 8位
女子200mバタフライ 3位 甲斐梨花子

- サッカー
①県大会 一回戦
②県大会 一回戦
③県大会 一回戦
④高校選手権千葉県大会 ベスト8

- 柔道
①ブロック予選通過
県大会 一回戦敗退
②県予選 二回戦敗退
③ブロック予選
個人73kg級 3位 瀧 良太
県予選 団体 一回戦敗退

- 剣道
①女子団体 県大会出場
②女子団体 県大会ベスト32
③女子団体 県大会出場
④船橋・鎌ヶ谷二市親善大会
男子団体 3位
船橋市民学生剣道大会
女子団体 優勝

- バスケットボール男子
①県大会 ベスト16
②県大会 第7位
③県大会 第5位
④北総地区大会 優勝
バスケットボール女子
①ブロック予選 3位
②県大会 ベスト32
③県大会 ベスト32
④県大会 ベスト16
⑤県大会 ベスト32
⑥県大会 ベスト32



2名選出

- 個人シングルス 県大会 2回戦
ブロック1位・2位
県大会 2回戦
個人ダブルス
ブロック1位
県大会 1回戦
ブロック3位
県大会 ベスト32

- 個人シングルス
ブロック3位・4位
県大会 ベスト64

- バドミントン
②男子団体 県大会出場
③男子ダブルス 県大会出場
④第9ブロック夏季大会
女子団体優勝

- アーチェリー
②男子団体 6位
③男子団体決勝トーナメント出場
男子個人 12位 一谷 賢治

- ④関東地区ターゲットアーチェリー大会
個人の部出場 一谷 賢治
ワンダーフォーゲル
新歓山行 奥多摩 大岳山 5月
千葉県クライミング大会参加 6月
夏合宿 甲斐駒ヶ岳・千丈岳 7月

●文化系部活動

合唱
千葉県合唱アンサンブルコンテスト

- 第72回NHK全国学校音楽コンクール
千葉県大会 金賞「ボスといっしょ」
第60回NHK全国学校音楽コンクール
千葉県大会 金賞・最優秀賞
第29回全国高等学校総合文化祭出場
第72回NHK全国学校音楽コンクール
関東甲信越ブロックコンクール

- 第60回関東合唱コンクール 奨励賞
オーケストラ
第29回定期演奏会
全国高等学校選抜オーケストラフェスティバル
全国学校合奏コンクール千葉県大会
県立合船橋地区音楽会
東船橋駅クリスマスコンサート
16年度千葉県高文連将棋大会
17年度全国高校将棋選手権予選
男子団体戦 4位
男子個人戦
ベスト8 大峰 裕之
ベスト16 桐野誠太郎

- 美術
「たちはな祭」にて展示発表 6月
千葉県高校文化祭 作品出品 11月
船橋地区高校美術工芸作品展 作品出品
出品予定 1月

- 陶芸
「たちはな祭」 作品出品
千葉県高校文化祭 作品出品
船橋地区高校美術工芸作品展 出品予定

- 華道
3年生は皆伝取得
池坊お茶の水学院で実施された歴代講習に参加
旅行研究
「たちはな祭」にて冊子発行
旅記冊子発行 11月
その他個人旅行

- 鉄道研究
「たちはな祭」にて鉄道模型実演と駅弁の販売
機関誌「Steamer」の発行(年4回)
アコースティックギター同好会
「たちはな祭」合唱祭等発表

- 放送委員会
第17回千葉県高文連放送コンテスト
アナウンス部門 優秀賞受賞 2名
朗読部門 優秀賞受賞 1名
オーディオビジュアル部門 優秀賞
第2回関東地区高校放送コンクール
朗読部門 優良賞(第3位)
アナウンス部門参加
第52回NHK杯全国放送コンテスト
千葉県大会
創作ラジオドラマ部門 最優秀賞
アナウンス部門 最優秀賞
1名
創作テレビドラマ部門 優秀賞
ラジオドキュメント部門 優秀賞
テレビドキュメント部門 最優秀賞

- 全国大会
創作ラジオドラマ部門 優勝
アナウンス部門 優良賞(4位)1名
準決勝進出 1名
創作テレビドラマ部門 準決勝進出
ラジオドキュメント部門 制作奨励賞
テレビドキュメント部門 準決勝進出

- 華々決勝進出
第29回全国高等学校総合文化祭(青森大会)
オーディオビジュアル部門 優秀賞
アナウンス部門参加

●全国優勝を頂いて

7月24日、NHKホールで、決勝進出校発表のスクリーンに千葉県立船橋高校と出た時は、正直信じられなくて見間違ひかと思いましたが、何だかよくわかりません。この時は頭が真っ白で、後で聞いたらやはり何を言っているのかよくわかりませんでした。作品を流し...。ふわふわした気分のまま優勝の発表を待っていたら、高校の名前を呼ばれ、おそろしなながらNHK杯を頂きました。準々決勝や準決勝、他の学校の作品を聞くと、どれも良い作品に聞こえて、ですから余計今回の優勝は驚いたし、嬉しかったです。

私たち放送委員会は番組4部門とアナウンス部門で全国大会に向かいました。私が出したのはラジオドラマでしたが、アナウンス部門は4位入賞、テレビドラマ部門も制作奨励賞を頂くなど良い成績を残すことが出来ました。NHK千葉のラジオ番組にも生で出演させて頂き、こちらも緊張して何を言っているのかよくわからない状態にもなりましたが、とても楽しかったです。また私の番組をより多くの人に聞いていただく事が出来たと嬉しかったです。この番組をつくるにあたって、随分悩んだり、いつそ大会に出すのをやめようかと考えたりした時もありました。それでもこうして番組が出来て、その上このように素晴らしい賞を頂いたのも、ひとえに周りの人が支えてくれたお陰だと思います。脚本作りや編集などの制作段階で助言したりしてくれた委員の方々や顧問の先生、スケジュールの合間を縫って脚本を演じ、作品の完成度を高いものにしてくれたキャストの方々、精神面で支えになってくれた友達や家族、皆さんに感謝の気持ちで一杯です。優勝した時一番嬉しかったのは、委員の皆さんが本当におめでとうと喜んでくれた事です。みんな大好きです！ありがとうございました。



華々決勝進出

おたより彼れ是れ

平澤 徹(昭和28年卒)

1月15日には、船高籠球部(O.B. O.G.)の会、籠球会創立50周年の総会があり、参加者50人の参加予定です。
※昨年度のおはがきです。総会の様子等続報頂ければ掲載いたします。

黒田 重田(昭和45年卒)

体操部同期の土井忍(同、平塚さんの主催するダンス教室の発表会をみるため、船橋駅(JR)より宮本公民館迄歩きました。駅前はずっかりかわつていられるの商店街にさしかかると昔のまま、当時を鮮明におもいだしました。

高橋 聖蔵(昭和27年卒)

私はS27年の卒業の為、私達の思い出の施設は野球場ばかりで、(これも縮小された?)全く面影が残っていないので、施設の見学出来る同窓会を開催出来ませんか?

石橋 安(昭和23年卒)

我々同級会の連中は、旧制中学最後、新制高校初の卒業者ですが、第2次世界大戦中として敗戦と難しい時期の在学でしたが楽しい懐かしい船高での青春時代でした。

浅野 渡辺 泰子(昭和36年卒)

現在リタイアし自遊人です。二人の孫とカランチヤイ(茶道、社交ダンス)で青春を取り戻そうとしています。

大塚 橋尾 洋子(昭和35年卒)

38年間の仕事生活を終え、ある時同窓会で出会ったクラスの人と今は2ヶ月に1回の食事会(今という合コンでしょうか)新鮮ですね。

土田 茂吉 敬子(昭和49年卒)

今年には「たかはな祭」にも行くことができ、同窓会でもなつかしい面々と再会も果たすことができました。子供も高校生になり、30年という時の流れが速くたぐいまれせん。

谷 恵子(昭和49年卒)

今年には、卒業後30周年ということで、初めて同窓会にも、そして同期会にも参加しました。とても懐かしく、楽しい時間でした。現在は、次男が船高の1年生となり、母校に足を運ぶことも多くなり、ますます母校への愛着が深まっています。
木村 中(昭和52年卒)
地方都市で船高の同窓会のようなものは、ないのでしょうか?北海道(函館)にあれば教えて下さい。

最近、平均寿命が延びたといえ、70年を数歳重ねると人生の残り時間が少なくなつてきた感じがする。
そのような時、平成16年秋、我々のクラス会「青大根相友会」の開催があった。半世紀前に時計の針を戻し、お互いに若かった日々の語り合いに花を咲かせ、どうやら若返る事が出来た。人生は何時も、終わりになるかも知れず、不安を挙げれば切りがない。毎日、健康で心豊かな人生こそ、もつとも大切で、健康でいる限り出席する心づもりだ。

加藤 孝(旧職員)

現役引退後はや18年、公職も殆んど退き気楽な分限の身になりました。身体的機能の衰えは加齢現象と受けとめ、頭のジョギング、ハートのマッサージ怠りなく、健康寿命を少しでも長く保ちたいと努めております。

佐藤 和子(昭和32年卒)

同窓会だより第17号の「定時制大活躍」を読んで感動しました。特に「全国大会」に出場して「一は胸が熱くなりました。夜の学舎、家庭が懐かしい思い出されます。匿名(昭和31年卒)

石田 寛(旧職員)

退職後から始めた木彫、民話、詩吟の各講座の受講とその発表会等に参加。元気いっぱい励んでいきます。

佐藤 吉幸(昭和54年卒)

閉閉式屋内プールが出来たのですか。宮本中学校からい下げた、コケの生えたプールが懐かしい。

松田 桂子(昭和34年卒)

高校時代も遠い昔の事となりました。一度クラス会に出席し楽しい一時を過ごしました。遠方の為と今でも現役で(満67才)仕事をしています。通知が来ますと懐かしさで一杯になります。後輩達の活躍を祈ります。

福田 本田 昌子(昭和58年卒)

再開で変化著しい船橋駅南口。高2の秋に東船橋駅ができるまでは、京成・バス・徒歩を交互に使っていたついで、多感な頃の甘すつばい思い出とともに頭

に浮かびます。

露木 武(旧職員)

早川選手(オリックス)の3年次の担任です。在学中の彼は決して野球オンではなく、文武両道・HR長として、ナイ・ス・ガイ!でした。もちろん、大学・社会人・プロに入つてからも応援して、来季が勝負の年です。皆さん応援して下さい。

大野 岸本 孝子(平成2年卒)

船高を卒業しては15年がたちますが、こうして同窓会だよりが送られてくると、とてもなつかしく拝見しています。私自身は、今年10月に多摩市から再び八千代市に転居し、来年2月に第2子誕生の予定です。

篠塚 潔(昭和43年卒)

「同窓会だより」で同期生の大河原孝夫さんが紹介されていて懐かしく読ませて頂きました。今後同窓生で各方面で活躍されている方を紹介して下さい。

杉原 次夫(昭和25年卒)

昨年8月「佐倉平和のついで」において、昭和20年4月8日、中山競馬場での勤労動員の体験発表、好評でした。

西ノ 明久代(平成2年卒)

いつも楽しく拝見しております。丸石先生のけん玉をなさつていた時の記憶がよみがえり、大変なつかしく感じます。名物教師の方が、今後も母校から多く輩出されることを願っています。

平島 藤村 恭子(昭和63年卒)

「船橋高校の歴史」で小川信雄先生のお名前に懐かしさでいっぱいになりました。拝見しました。深い知識による考察に、高校時代、授業中一生懸命聞いているつもりがどうしてもまぶたが閉じてしまった事を思い出しました。良い生徒ではありませんでした。色々と親身になって下さつていた先生にお会いしたいです。

野口 紀雄(昭和26年卒)

昨春、卒業後52年振りに初めて母校を訪ねました。当時を忍ぶものは稀少でしたが、正門脇の中学碑に感無量でした。併設中学から高校と6年間を過ごした端境期の特異な体験をした数少ない世代です。偶然、今風の中高一貫教育を受けたことになりました。試験したり、ポイズアウトで皇居前広場で開催された世界ジャンボリーに参加、橋公像の近くでのキャンパス等が思い出されます。

第三回県立船橋高校同窓会 親睦ゴルフ大会開催される

このほど第三回県立船橋高校同窓会ゴルフ部会(会長・塩田俊一)主催による親睦ゴルフ大会が、秋のスポートシーズンだけなわの平成二十七年十月二十七日日武カントリークラブ(印旛郡)にて開催されました。

ゴルフ部会は、常任理事会・理事会の承認を得て同窓会組織から独立した形で、ゴルフを趣味とする本校卒業生、旧職員等が相集い親睦を深め合いながら、健康でプレーできる感謝の気持ちで集まった浄財を含めて、趣旨でも母校のために役立てたらという趣旨で三年前に新たに発足しました。

当日は前日から小雨が午前中まで降り続きましたが、参加者三十一名の熱気が天に通じたか午後からは雲間からお日様のぞきはじめ、見事な青空に変わりました。十時過ぎの遅いスタートで日没が心配されましたが、プレーは新バリエア方式で行われ緑のジュエタンに白球が飛び交い全員元気にホールアウト。夕暮れ時少し冷えた体を入浴で温めながら、ゴルフ談義、近況を語り合い文字通りの裸の付き合いが随所に見られました。

引き続きゴルフ部会事務局(同窓会進行部)にて、表彰式が行われました。

実行委員長 三代川幹雄(同窓会名誉会長) 小石 税(同窓会会長)の挨拶に続き、三橋衛(本校元校長)乾杯の音頭で敬談、表彰式に入り、天羽生豊(同窓会副会長)

の締め言葉で午後六時に散会しました。特に三代川幹雄、小石税の両氏から、米、野菜の大量の賞品提供があり、全員にもれなく賞がゆきわたり参加者一同は大喜び。

また、遠く沖縄から宮里盛雄、浜松から宇井宏夫、風間勝也本校元校長の参加もあり、船川昌澄(同窓会理事)がノンブレイヤーとしてボランティアをつとめ、実り多い大会となりました。なお、No.17ホールをチャリティホールとした結果、二万四千五百円の真心の浄財が寄せられました。

成績結果、賞品提供者は次の通り

総合優勝	相澤 友夫	71.6	86
二位	平山 敏雄	72	90
三位	峰谷 三郎	72.2	77
女子優勝	山田 公子	75.8	101
二位	吉田美智子	76	94
三位	七條 育子	80.4	108
ベストクロス賞	峰谷 三郎	27.6	77
二位	女子 吉田美智子		94
二位	女子 No.17チャリティホール		
アウトスタート	大平淳一		
インスタート	平山敏雄		
	上原幸子		

賞品提供者
三代川幹雄、小石 税、天羽生 豊、矢島和光、宇井宏夫、相澤友夫
(文中敬称は略させていただきます)

掲示板

学年会、クラス会、クラブ会の開催予定や事業報告を掲載するコーナーです。掲載を希望される方は、同窓会事務局内「同窓会だより掲示板」係へ原稿を郵送してください。

同窓会だよりは、毎年12月上旬発行となりますので、原稿は8月末日を締め切りとさせていただきます。

なお、卒業年、担当者氏名、電話番号を記載願います。お送りいただいた内容について、担当者の方と調整させていただく場合がございます。

同窓会ホームページ 引っ越しのお知らせ

新URL：
<http://funaobog.hp.infoseek.co.jp/>

8月より上記URLに引っ越し、内容も一新しました。同窓会からのお知らせや活動報告に加え、母校の近況を写真とともに紹介しています。是非一度ご覧下さい。

同窓会事務局ホームページ係